

Part1 NGNならではのサービス続々登場 帯域確保型データ通信で市場拡大

「既存サービスとの違いが分からない」。これが多くのユーザーのNGNに対する見方だ。当初は既存サービスの踏襲が中心だったが、いよいよ回線認証やQoSといったNGNの機能を活用したサービスが登場し始めた。

2008年3月末にスモールスタートしたNTTグループのNGN(Next Generation Network)。開始半年後の昨年10月以降、NTT東日本/西日

本はエリア拡大やサービス拡充への取り組みを加速させたが、商用サービス開始から1年半を経過した現在も本格化しているとは言い難い。

法人向けでは「NGNならではの」帯域保証(QoS)や回線認証機能を活用したサービスの提供が遅れたことで、企業ユーザーの関心度は今一つだ。特に「既存のサービスと何が違うのか分からない」といった声が多い。今年9月以降、ようやくNGNの特徴を活かしたサービスや機能が本格的に登場し始めたが、今後の予定を含めてまだまだ情報が少ないのが実態だ。

そこでパート1では、投入されただけのものを含め、今後計画されているNGNの機能を活用した新サービスの概要を紹介する。

回線ID兼用でセキュリティ強化

まず、NTT東日本/西日本が9月16日に提供を開始した「回線情報通知機能」をみてみよう。

同機能は、サービスプロバイダ(SP)等が自社サービスのセキュリティをより強固にするために用いるもので、コンテンツ配信向けサービス「フレッツ・キャスト」のオプションとして提供されている。単独サービスにできなかったのは、活用業務の認可申請を避けるためとみられる。

回線情報通知機能は、「フレッツ光ネクスト」のユーザーが、自身の「フレッツナンバー」をフレッツ・キャストを利用するSPに通知する許可を与えている場合に、SPに通知するも

図表1-1 「フレッツ・キャスト」に対応した「回線情報通知機能」

